

アスリートの誕生日に関する研究

竹中 良樹 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)

指導教員 金森 雅夫

キーワード：生まれ月,スポーツ,身体的差

1. 緒言

私は、最近テレビでいろいろなプロの試合を観ることが多くなった。そんな中興味深い迷信を耳にした。「トップアスリートは4月～6月生まれの人が多い」と。それは、小学生くらいの時のことが影響してくる。4月生まれと3月生まれでは約1年の差がある。この時期での1年は身体的に大きな能力の差が生じてくる。本研究では、種目別にプロの生まれ月を調査し、そうでない種目はないのか調査する。そして本学生の部活では生まれ月に偏りがあるか、アスリートと比較してどのような結果が出るのか調査し、今後小学生くらいで能力の差で悩んでいる子供たちに対して、どうアドバイスや指導をしていくかを目的とする。

2. 研究方法

研究方法としては、各種プロチーム(男子バスケット201人,女子バスケット141人,男子バレー142人,女子バレー144人,男子サッカー510人,女子サッカー255人,野球768人)本学生(男子バスケット66人,女子バスケット30人,男子バレー33人,女子バレー39人,男子サッカー62人,女子サッカー23人,硬式野球部129人)の生まれ月を集計する。今回は日本人を対象に行いたいため、各チームにいる外国人選手は除く。

3. 結果と考察

男子バスケットのトップアスリートは全体の201人中,1～3月47人,4～6月45人,7～9月64人,10～12月45人となった。本学のバスケット部では,全体の66人中,1～3月12人,4～6月23人,7～9月17人,10～12月14人となった。男子サッカーのトップアスリートは全体の510人中,1～3月97人,4～6月163人,7～9月145人,10～12月105人となった。本学の男子サッカー部では全体の62人中,1～3月12人,4～6月26人,7～9月15人,10～12月9人であった。この結果をみると,世界と対等に戦えている種目は4～6月生まれが多いと言える。そしてもう1つの要因として競技人口の差もかかわっていると考える。

4. まとめ

本研究から生まれ月は多少関係しているかもしれない。しかしそれ以上にスポーツに向き合う姿勢が大事だと考える。地道にコツコツと努力を続けることがトップアスリートへの道だと考える。

5. 引用・参考文献

- ・JAPAN SOCIETY of RUGBY 日本ラグビー学会 桑田大輔「生まれ月(月齢)による精神的なスポーツ活動への影響」 p1-p3
- ・早稲田大学スポーツ科学部 卒業論文要旨集 宮崎龍一(2010) スポーツと年齢の関係 Relationships between Sports and Ages p1